

5.1.3. 都市に近接した農山漁村地域でのケーススタディ（奥能登地域）

抽出したモデル地区のうち、都市に近接した農山漁村地域として抽出した奥能登地域に関する地域実態の把握を行った。奥能登地域のケーススタディでは主に以下の現況を把握した。

地域を構成する各町村の中心部までは、ほぼ 30 分で到達できるコンパクトな都市構造を形成している。

第二次医療施設は、比較的充実した配置であるが、第三次医療施設は七尾市のみに配置されている。

平成 7 年～平成 17 年の 10 年間で、10%以上の人口減少がみられる。

平成 17 年時点の高齢化率が 35%以上であり、高齢化が進展している。

就業者における第一次産業の割合は増加しているが、農業生産額は減少しており、衰退がみられる。

構成市町の財政力指数は、いずれも 0.3 以下である。

(1) 位置及び市町村合併の状況

奥能登地域は、能登半島の先端に位置し、輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の 2 市 2 町から構成される。

奥能登地域の入り口である穴水町までは能登有料道路が開通しているものの、最奥の珠洲市までは一般道のみであり、金沢から珠洲市までは 2 時間程度の時間を要する。

のと鉄道も七尾駅から穴水駅までであり、奥能登地域の公共交通は高速バスと地域の路線バスが担っている。地区内はコミュニティバスの運行もあるが、総面積約 1,200 k^m²をカバーするにはいならず、利便性は十分とはいえない。

圏域の中心市は輪島市であるが、強力な吸引力はなく、各市町がそれぞれ個別の圏域を構成している状況にある。

平成 18 年に輪島市と門前町が合併し輪島市に、能都町、内浦町及び柳田町が合併し能登町となっている。

奥能登地域は、離島、半島振興地域に該当し、地域振興施策の対象となっている。

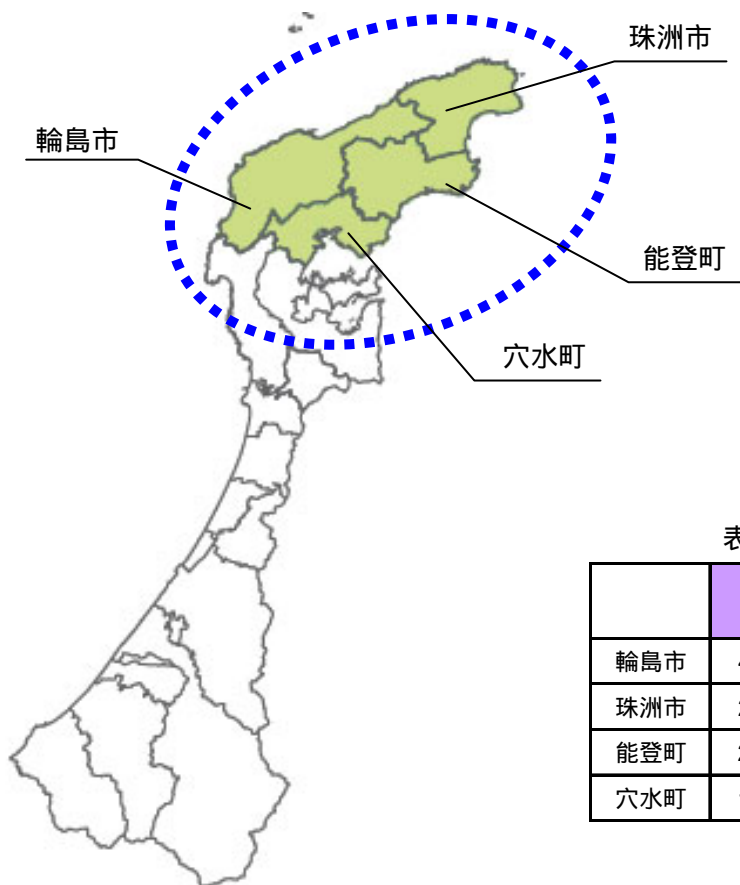
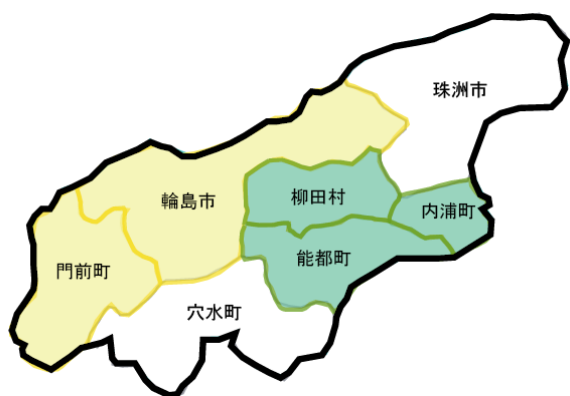


表 5-15 奥能登地域の概要

	面積 (km ²)	人口	人口密度 (km ² あたり)	世帯数
輪島市	426.24	32,823	77.0	11,894
珠洲市	247.19	18,050	73.0	6,508
能登町	273.46	21,792	79.7	7,643
穴水町	183.24	10,549	57.6	3,725

【出典】国勢調査（平成 17 年）

図 5-136 奥能登地域の位置および構成



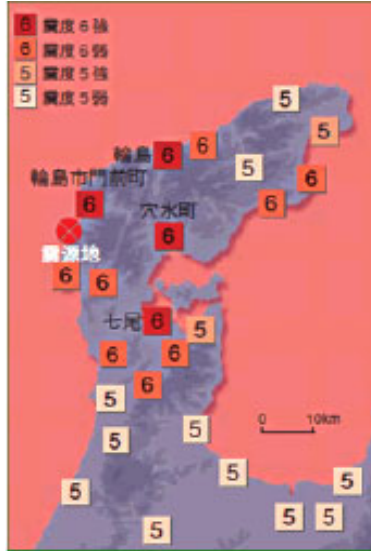
能登町		
2005 年 3 月	能都町・内浦町・柳田 村（新設）	人口 23,673 人
輪島市		
2006 年 2 月	輪島市・門前町（新設）	人口 34,531 人

図 5-137 奥能登地域の市町村合併の推移

(2) 地震

奥能登地域では、平成 19 年 3 月能登半島地震により 500 棟以上の家屋が倒壊するなど、甚大な被害を受けた。

現在は、概ね復興も終わり、平常の生活に戻りつつある。

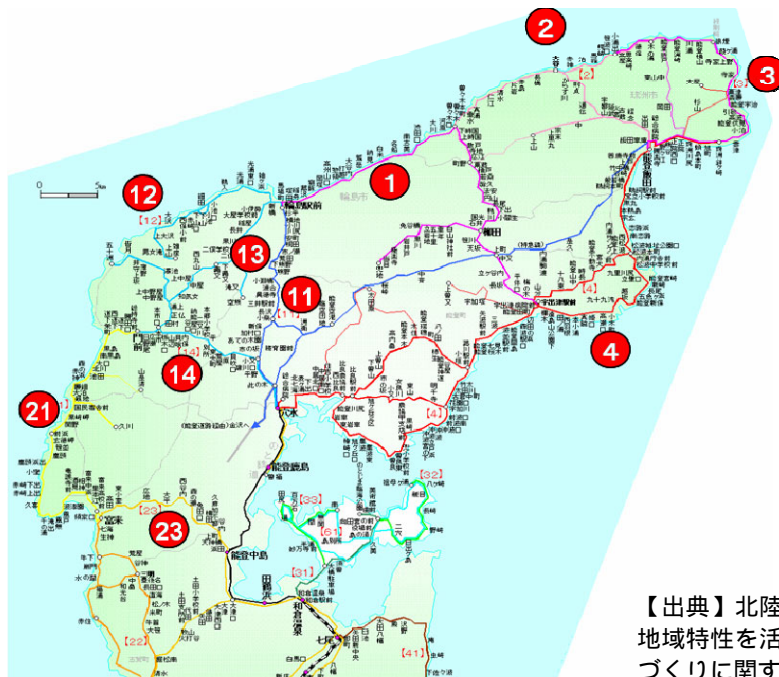


【出典】穴水町 HP

図 5-138 能登半島地震の被災状況

(3) 奥能登地域の公共交通網

能登地域では、のと鉄道の廃止代替路線を含め 10 系統の路線バスが運行し、半島内を循環している。珠洲～穴水間では約 2 時間 30 分の運行時間を要し、乗り継ぎもあるなど、利用に制限がある。



系統	運行区間
①	輪島～宇出津 (北鉄奥能登バス)
②	曾々木～飯田 (北鉄奥能登バス)
③	飯田～木の浦 (北鉄奥能登バス)
④	飯田～宇出津～珠洲 のと鉄道代替バス (廃止代替路線)
⑪	穴水～輪島 (北鉄奥能登バス)
⑫	輪島～上山 (北鉄奥能登バス)
⑬	門前～輪島 (北鉄奥能登バス)
⑭	穴水～門前 (北鉄奥能登バス)
⑳	富来～門前 (北鉄能登バス)
㉓	(七尾～)能登中島～富来 (北鉄能登バス)

【出典】北陸地方整備局「北陸圏における地域特性を活用した自立的、持続的な地域づくりに関する調査 報告書」(平成 19 年)

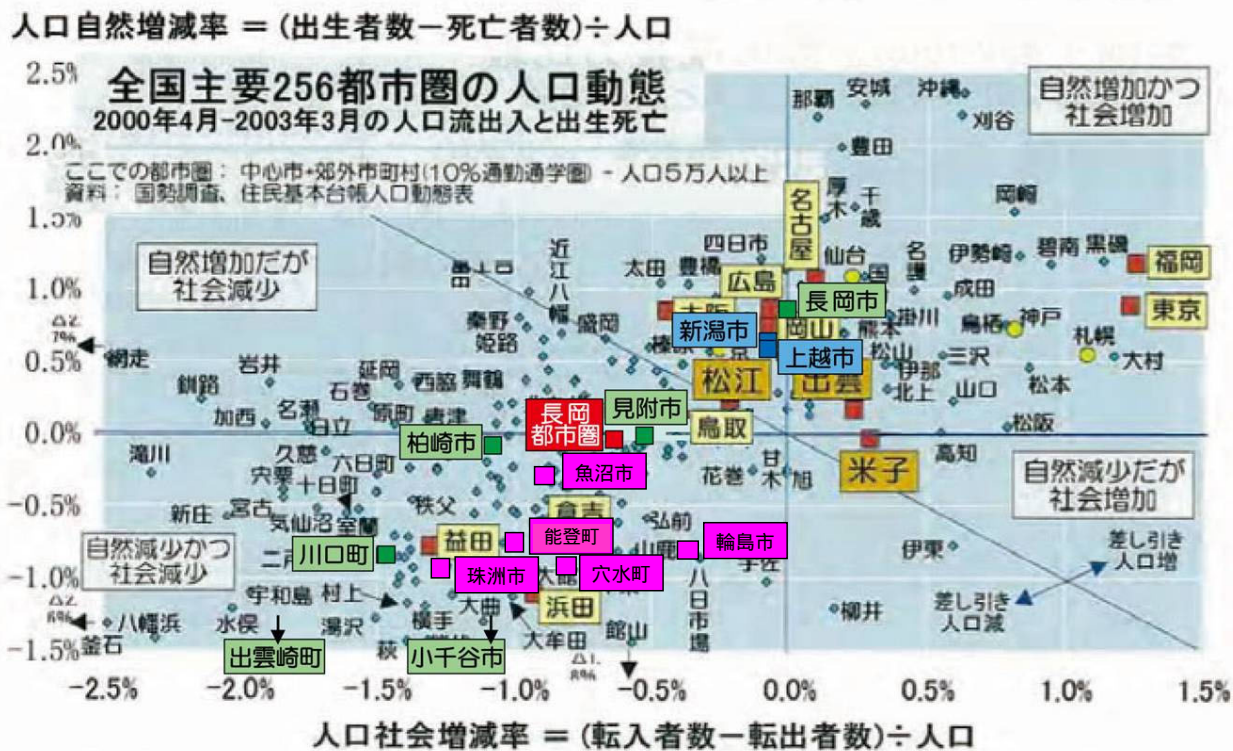
図 5-139 奥能登地域の公共交通網

(4) 人口の状況

1) 人口動態に見る奥能登地域の位置づけ

奥能登地域の人口は自然増減、社会増減共に減少

奥能登地域を構成する輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の人口動態では、いずれの自治体でも、自然減、かつ社会減となっており、少子化、高齢化がともに顕著である。



【出典】日本政策投資銀行地域企画部「中海・宍道湖経済圏における観光振興策～地域づくり健康診断～」

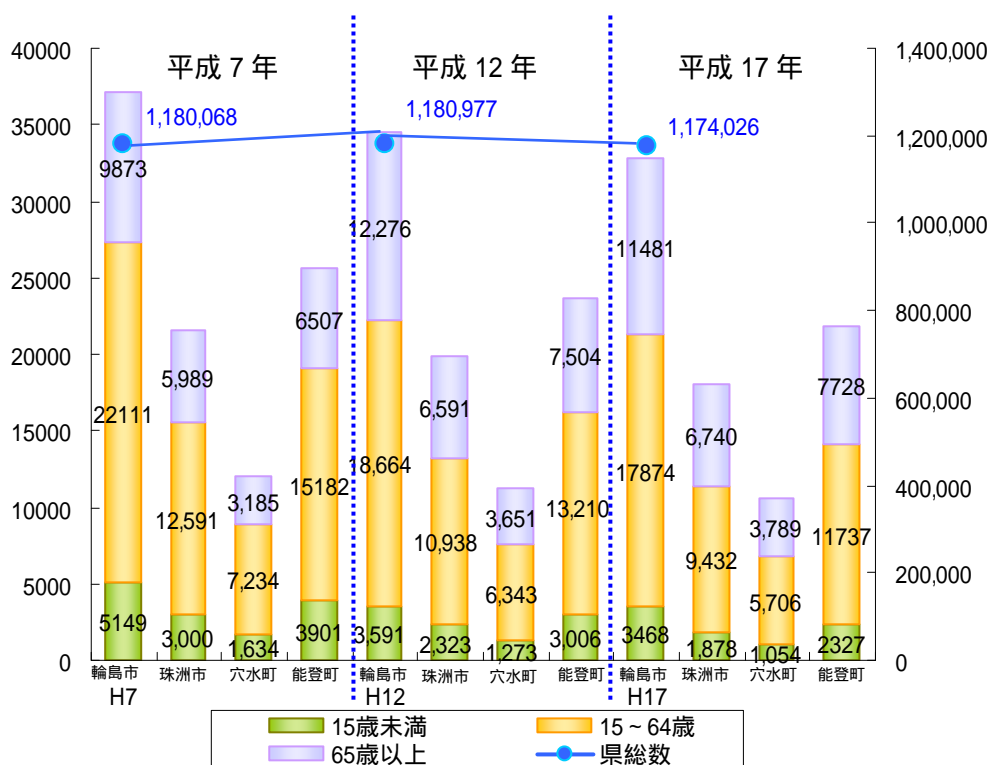
図 5-140 全国主要都市圏の人口動態

2) 人口減少

奥能登地域での人口が減少

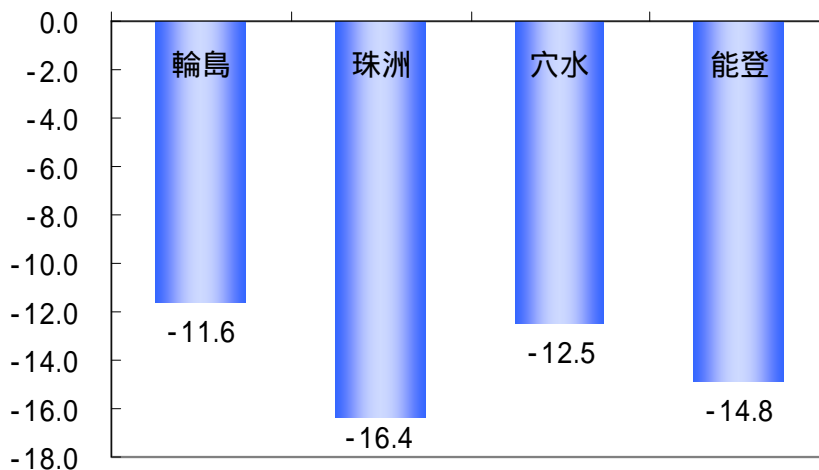
平成7年～平成17年にかけて高齢者人口は増加傾向にある一方、15歳未満の年少人口が減少しており、全体に人口減少傾向となっている。

人口は、10年間で各市町共に10%以上の減少であり、特に半島の先端に位置する珠洲市では、16.4%と著しい人口減少となっている。



【出典】国勢調査

図 5-141 奥能登地域の人口の推移（平成7年、平成17年）



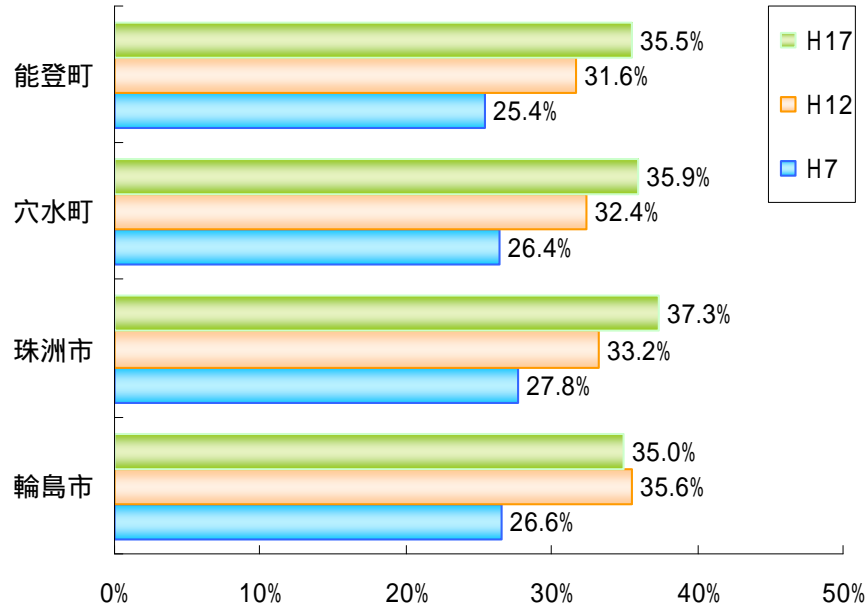
【出典】国勢調査

図 5-142 地域別人口増加率（平成7年、平成17年）

3) 高齢化

珠洲市、輪島市で顕著な高齢化

輪島市をのぞいて各市町ともに高齢化の進行が顕著であり10年間で10%程度、高齢化率が上昇している。平成17年には、各市町で高齢化率は35%を超える厳しい状況にあり、高齢者の暮らしの安全・安心の視点に立った地域づくりに取り組む必要がある。



【出典】国勢調査

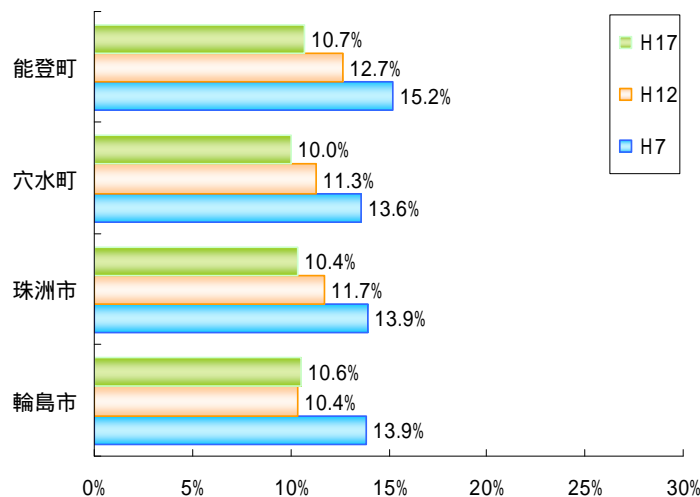
図 5-143 地域別高齢化率（平成7年～平成17年）

4) 少子化

奥能登地域では少子化も進む

奥能登地域の年少者人口は、各市町において10年間で3.5～5%程度減少し、平成17年時点で全人口に占める割合は10%程度であり、深刻な少子化傾向となっている。

奥能登地域少子化率の推移



【出典】国勢調査

図 5-144 地域別年少者人口比率（平成7年～平成17年）

5) 人口流出

輪島市、珠洲市、穴水町で出生が微増

平成 19 年の奥能登地域での出生数は 429 人であり、能登町は減少傾向が続いているものの、輪島市と珠洲市、穴水町では増加に転じている。合計特殊出生率は、県平均を上回っており、今後の年少者人口の増加が期待される。

昼夜間人口比率では、穴水町で昼夜間人口被率が増加、珠洲市では減少が見られるほかは、概ね動態に変化は見られない。昼夜間人口は概ね 1.0 前後であり、他市町との人口流動は少ない。

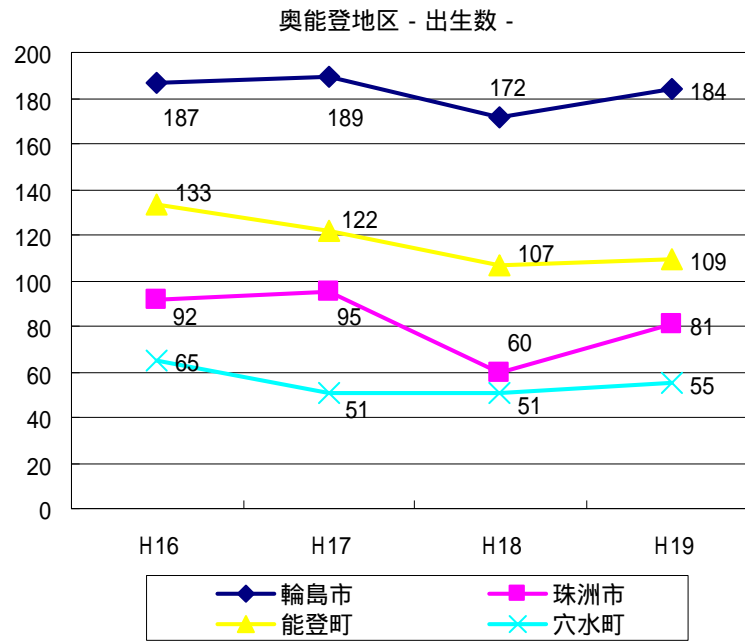
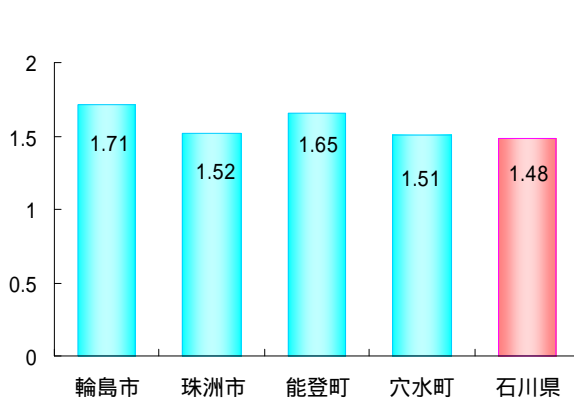


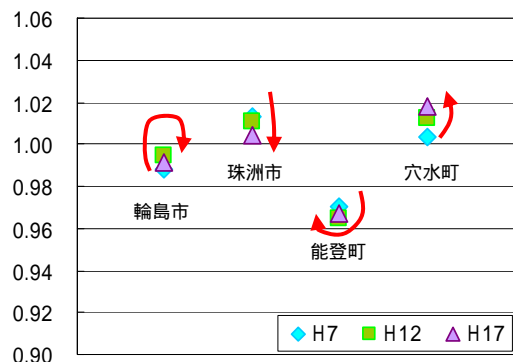
図 5-145 出生者数の推移

【出典】石川県統計書



【出典】石川県統計書

図 5-146 合計特殊出生率



【出典】石川県統計書

図 5-147 昼夜間人口比率の推移

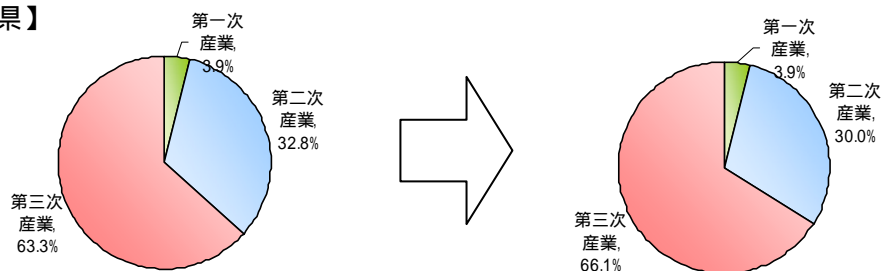
(5) 産業の状況

1) 産業の構造

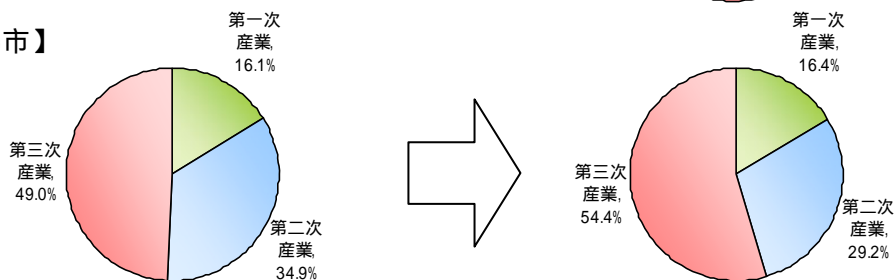
第二次産業が減少し、第一次・第三次産業が増加する傾向、第一次産業比率は石川県全体に比べ高く約2割程度

奥能登地域の産業構造は、石川県全体に比べ、第一次産業割合が高く、第二次・第三次産業の割合が低い。また、第一次産業を見ると、穴水町で微減しているが輪島市・珠洲市・能登町では増加している。2市2町いずれも第二次産業が減少し、第三次産業が増加している。

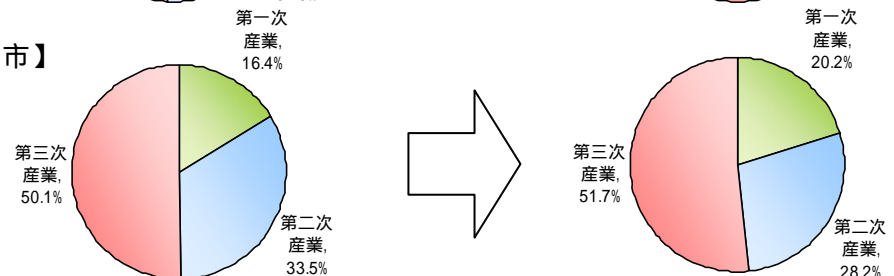
【石川県】



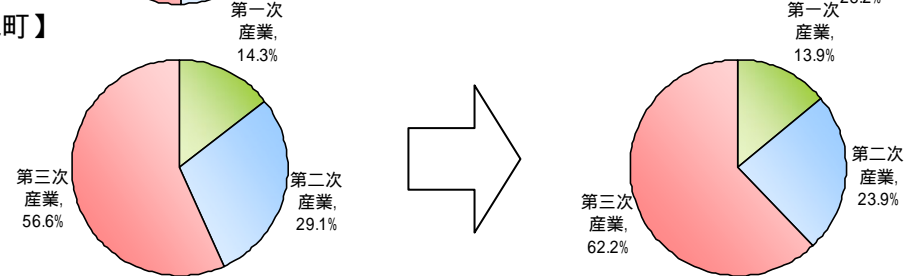
【輪島市】



【珠洲市】



【穴水町】



【能登町】

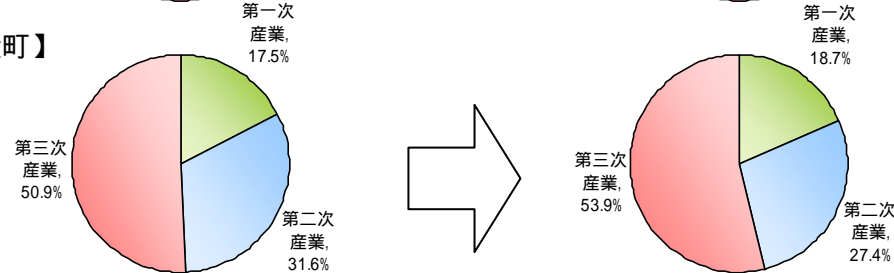


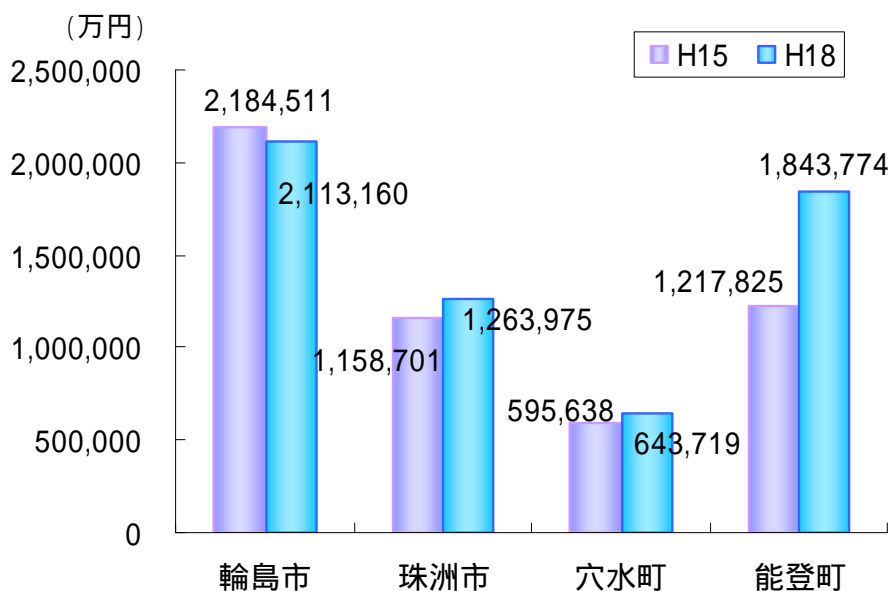
図 5-148 産業分野別人口割合

【出典】国勢調査

2) 工業・農業の状況

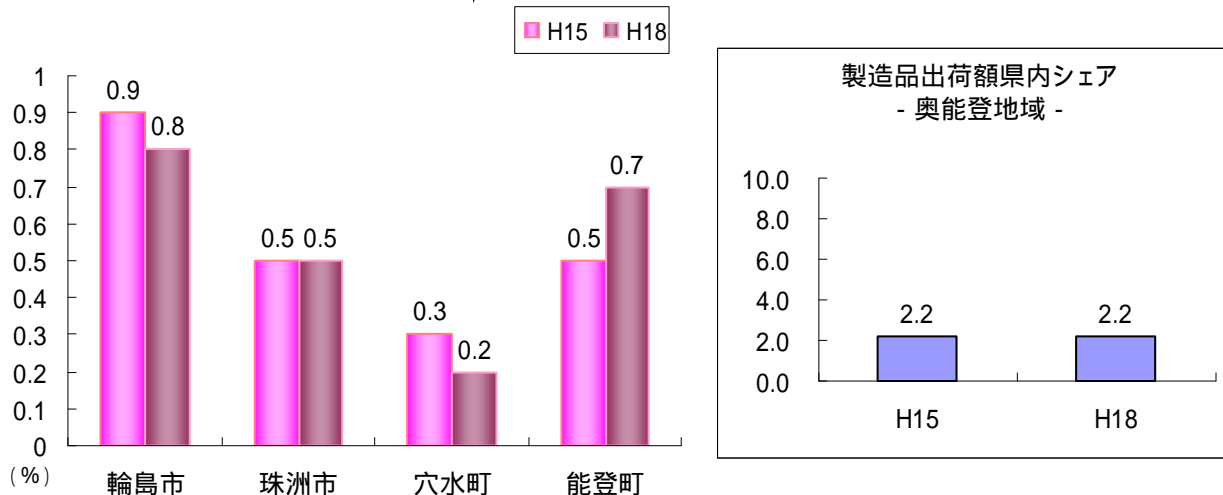
珠洲市、能登町、穴水町で製造品出荷額が増加

奥能登地域では、珠洲市、能登町、穴水町での製造品出荷額が増加しているが、地域全体が県内に占めるシェアは2.2%と横ばいである。



【出典】工業統計

図 5-149 製造品出荷額



【出典】工業統計

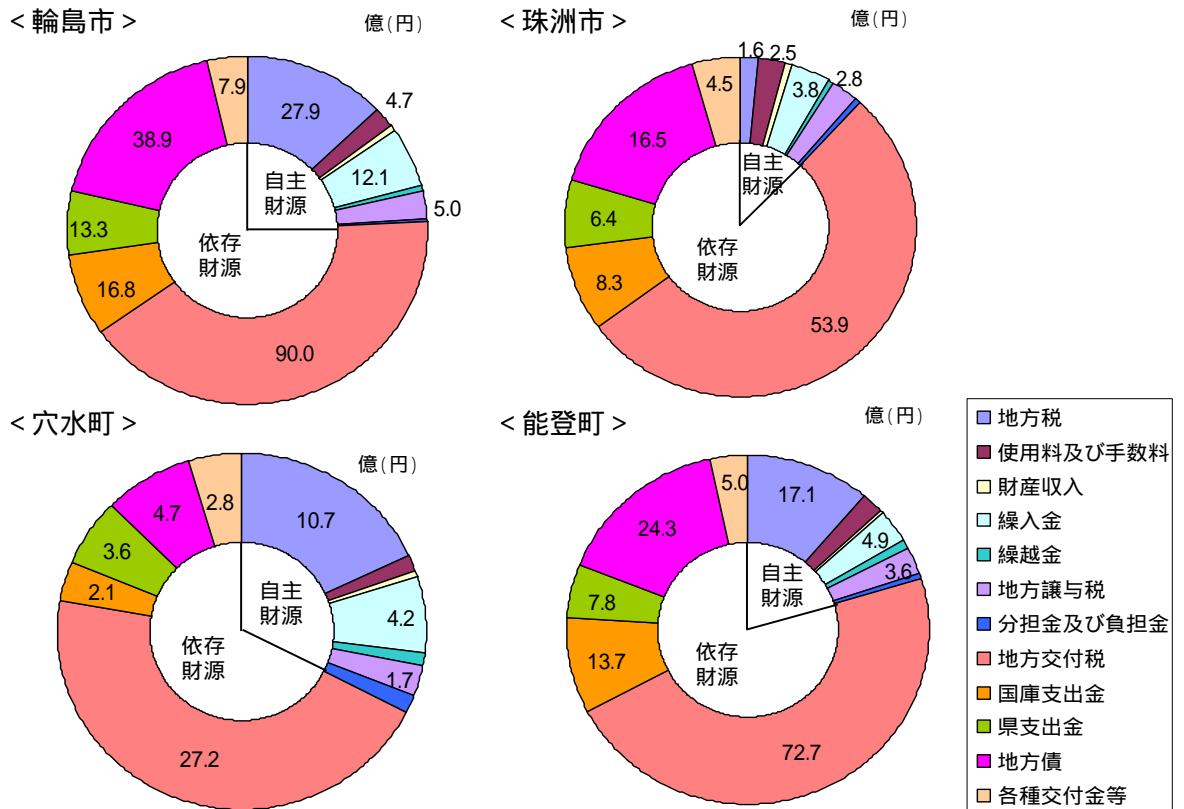
図 5-150 製造品出荷額の県内シェア

(6) 自治体財政

1) 外部に依存する財源

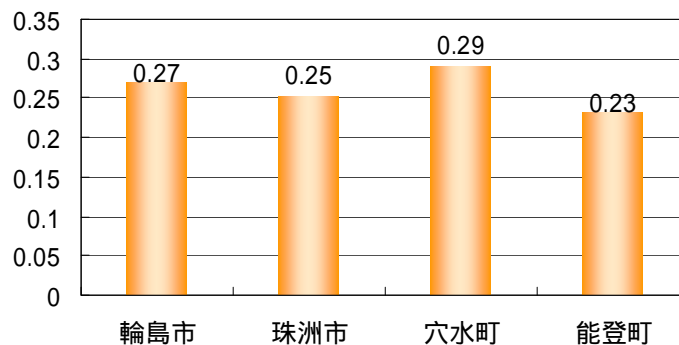
自治体の財源における自主財源は、輪島市では、約 25%、珠洲市では、約 15%、穴水町では約 30%、能登町では約 20%といずれも自治体収入は不足しており、地方交付税をはじめとする財源に多くを依存している。

財政力指数はいずれの市町も 0.3 以下となっており、財政の健全化が望まれる。また、公債比率では、輪島市、能登町で高く、財政を圧迫している。



【出典】石川県統計書

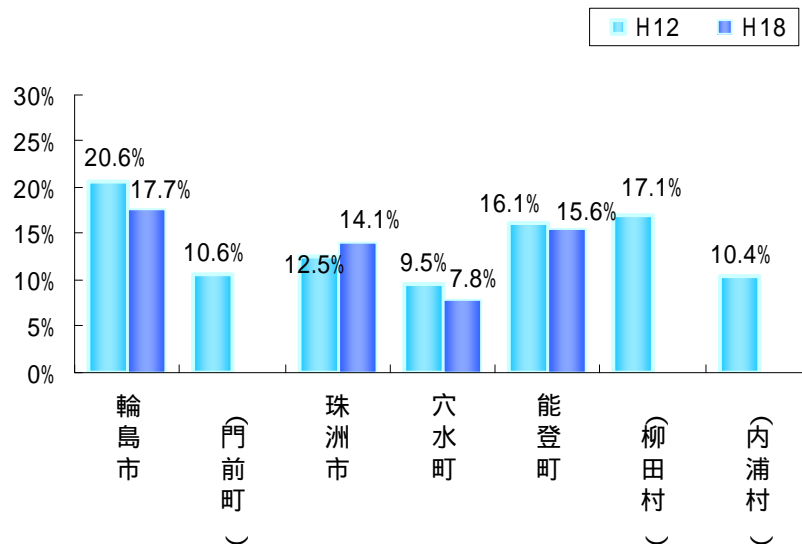
図 5-151 市町村収入に占める自主財源の比率 (平成 18 年)



財政力指数：
 (基準財政収入額)
 / (準財政需要額)の
 過去3カ年の平均値。
 地方公共団体の財政
 力を示す。

【出典】石川県統計書

図 5-152 財政力指数の状況 (平成 18 年)



公債費負担比率：一般財源（用途を制限されていない財源のうち）のうちどれだけを公債費（借金の返済）にあてたかを表し、財政運営の弾力性を示す。

【出典】石川県統計書

図 5-153 公債費負担比率

(7) 奥能登地域の課題

奥能登地域のケーススタディでは、主に以下の課題を把握した。

七尾市に配置されている第三次医療施設へのアクセスは、能登有料道路が穴水 IC まで、能越自動車道（穴水道路）が穴水 IC～能登空港 IC、能越自動車道（田鶴浜道路）が徳田大津 JCT～田鶴浜 IC まで整備されているものの、奥能登地域の大半が第三次救急医療施設 60 分圏域外であり、高次医療サービスへのアクセスの改善が必要。

周産期医療施設は、金沢市に依存している状況にあり、奥能登地域における周産期医療体制の構築が必要。

若年層を中心に人口流出が見られるため、雇用機会の増加等により流出抑制及び定着を図ることが必要。

進展する高齢社会への対応として、公共交通を中心とした移動手段の確保が必要。

恵まれた観光資源を活用した観光産業の強化及び、これによる就業機会の増加が必要。

1) 医療

第三次救急医療機関へのアクセス強化

奥能登地域の第二次救急医療機関は、各市町に一箇所以上配置されている。第三次救急医療機関が配置されている七尾市へは、能登有料道路が穴水 IC まで、能越自動車道（穴水道路）が穴水 IC～能登空港 IC、能越自動車道（田鶴浜道路）が徳田大津 JCT～田鶴浜 IC まで整備されているものの、60 分で到達できない地域が輪島市・珠洲市・能登町を中心に多く存在しアクセスは不十分な状況にある。これらの地域から第三次救急医療機関への時間距離を短縮するため、能登有料道路の穴水 IC に接続する地域高規格道路等の整備をはじめとしたアクセス強化を図る必要がある。

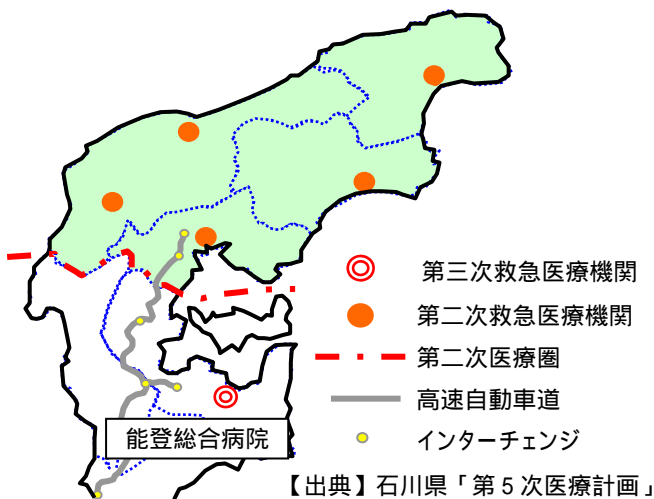


図 5-154 救急医療機関の配置状況

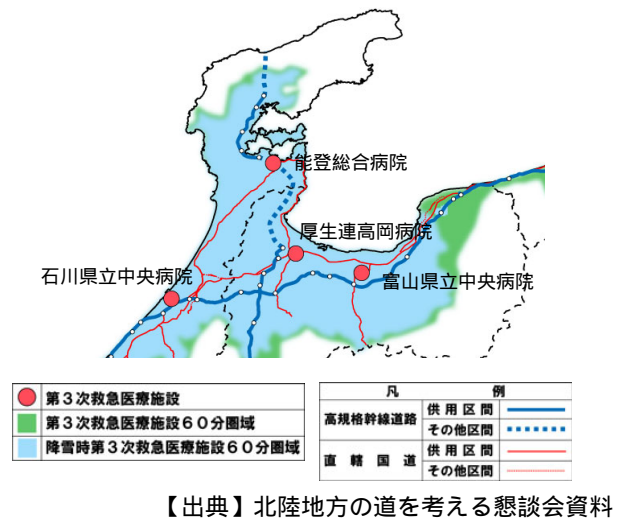


図 5-155 第三次救急医療 60 分到達圏の状況

周産期医療への不安の解消

能登地域には、周産期医療施設（総合周産期医療及び地域周産期医療）が配置されておらず、能登地域の周産期医療は金沢市の施設が担っている状況にある。これら施設へのアクセスは、前述の七尾市へのアクセスに比べ、さらに困難な状況であり、アクセスの改善や能登地域における周産期医療体制の構築を図る必要がある。

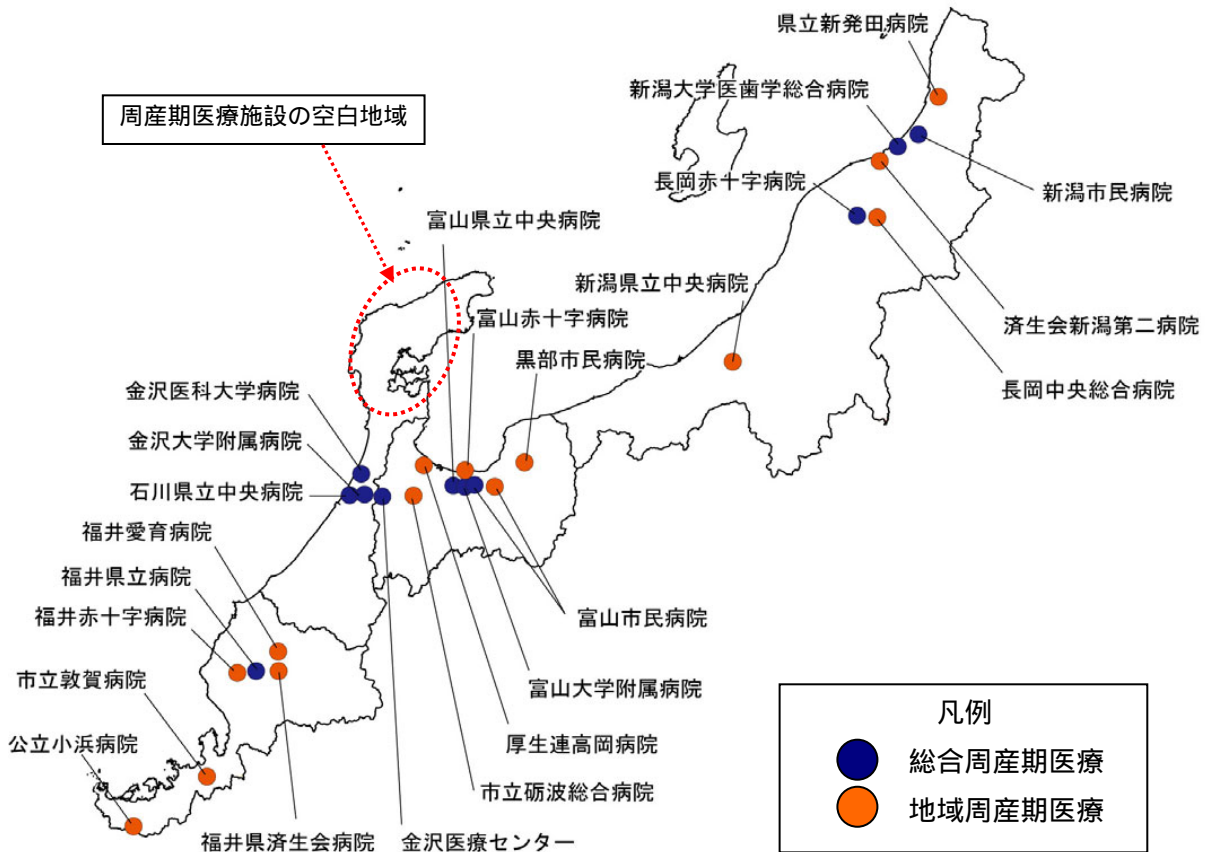


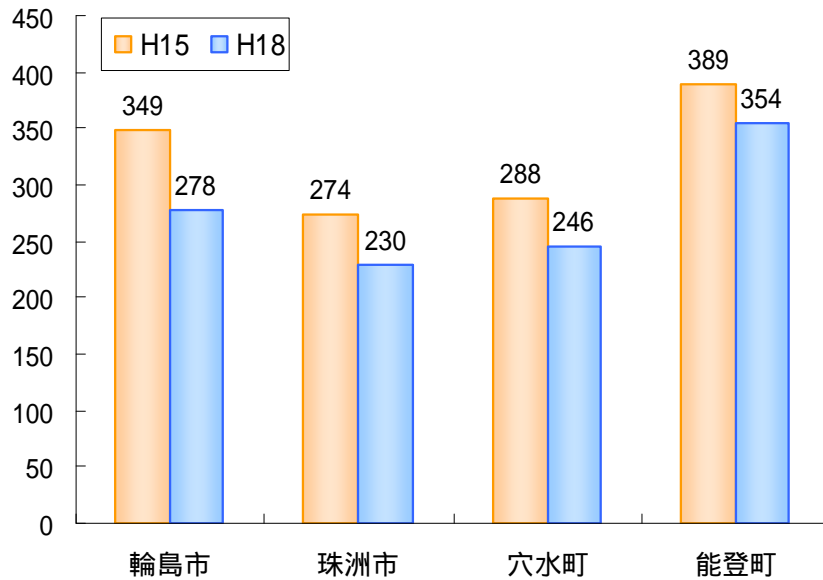
図 5-156 周産期医療機関の配置状況

2) 職

第一次産業から製造業への移行

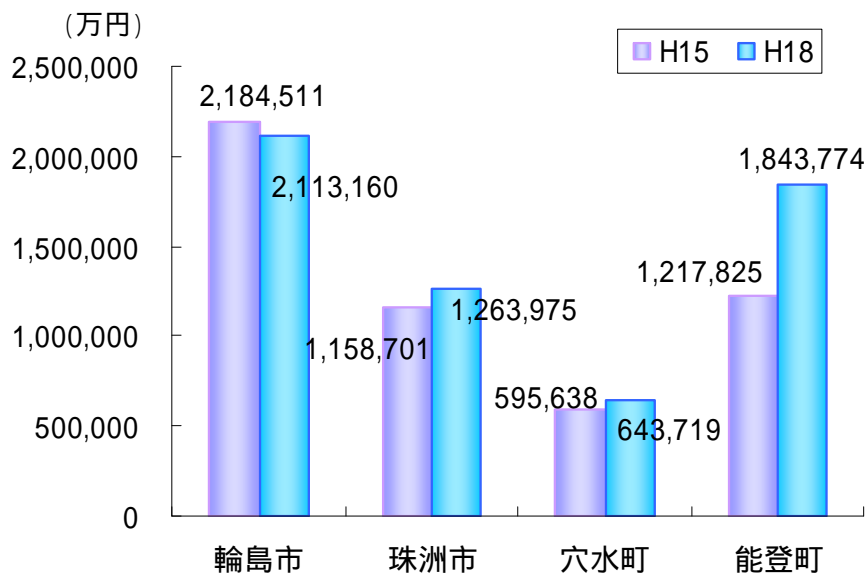
奥能登地域では H15 から H18 にかけて、農業生産額が減少、製造品出荷額の増加が見られるなど、第一次産業から製造業への移行がうかがえる。

(千万円)



【出典】石川県統計書

図 5-157 農業生産額の推移 (再掲)



【出典】工業統計

図 5-158 製造品出荷額の推移 (再掲)

サービス業を主体とした産業から、製造業の充実による産業構造への強化

輪島市は奥能登地域の中では中心的な位置づけにあり、新聞社の通信局など情報系の産業が進出している。また珠洲市では、豊かな自然を背景として観光産業が有力であり、ホテルや観光を主体とした企業の立地が見られる。

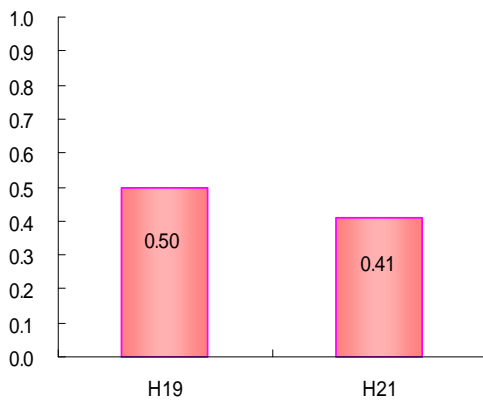
こうしたサービス業の維持とあわせ、製造業の充実を図るなど、確実な地域産業を確保し、産業構造の強化を図る必要がある。

表 5-16 奥能登地域の主要なサービス業

主要なサービス業	
(輪島市)	(珠洲市)
朝日新聞輪島通信局	珠洲ビーチホテル
北陸電力株式会社 / 輪島営業所	株式会社ホテル海楽荘
北陸中日新聞 / 輪島通信局	能登観光ホテル
北國新聞 / 門前支所 など	株式会社日本旅遊公社 など

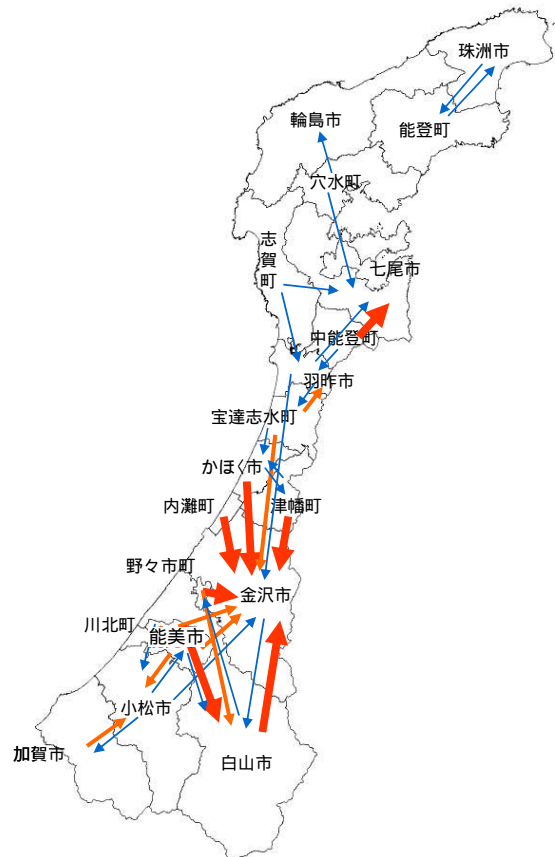
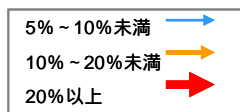
地域で働くことのできる環境を構築し、若者の流出を抑制

地域の通勤流動を観ると、ほぼ自市内で収束しており、地域内での吸引力を持つ特徴的な市町は見られない。奥能登地域の有効求人倍率は平成 21 年で 0.41 と求職者 2 人に対して 1 以下の状況であり、地域外への人口流出を促す要因となっている。こうした状況を改善するため、地域内の就業機会の増加を図る必要がある。



【出典】石川県労働局

図 5-159 求人・求職及び求人倍率（常用）



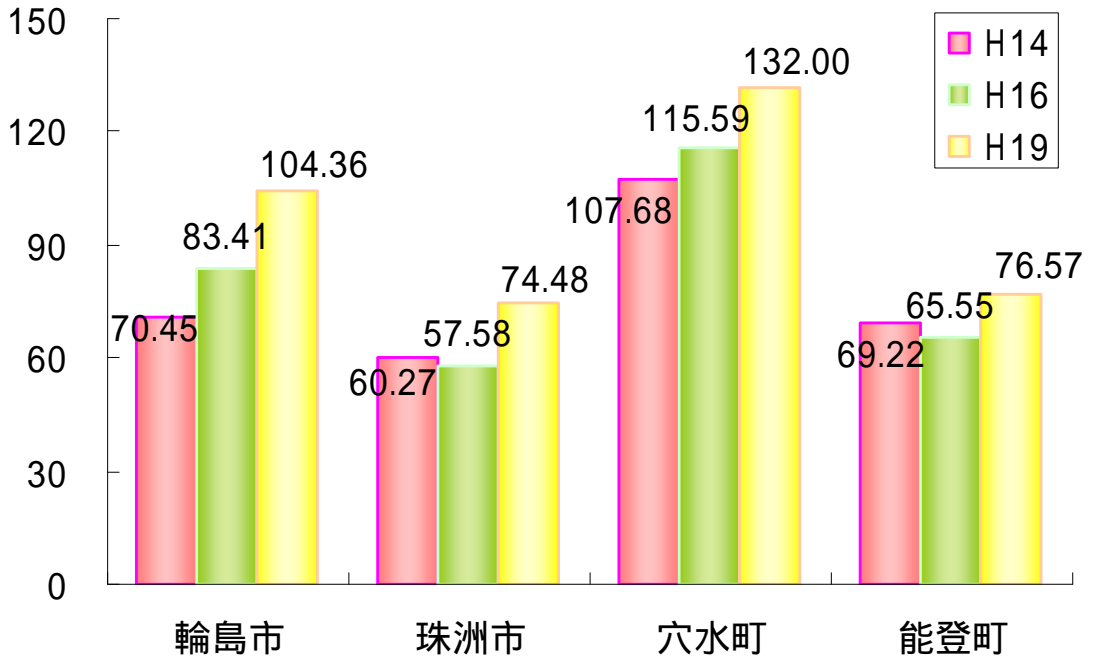
【出典】国勢調査（平成 17 年）

図 5-160 通勤流動

3) 住

穴水町での商業床の増加機会を捉えた活力の向上

小売業全体の販売額は減少傾向にあるなか、1店舗あたりの売場面積、及び店舗あたり販売額が増加しており、大規模店舗の出店の影響がみられる。



【出典】商業統計

図 5-161 一店舗当たりの売場面積の推移

表 5-17 大規模店舗立地状況

開店年月 (申請日)	店舗名称	所在地	店舗面積 (m ²)
1974.6	宇出津ショッピングプラザ	能登町	1,374
1979.10	ショッピングプラザ・シーサイド、シメノドラッグ珠洲シーサイド店	珠洲市	4,217
1981.3	ショッピングセンターサンポアわじま	輪島市	3,708
1983.10	ショッピングセンターファミ	輪島市	5,299
1993.11	能都ショッピングタウン(アルプ)	能登町	4,150
1994.9	ホ-ムセンターはしもと宇出津新港店	能登町	2,218
2000.5	穴水ショッピングセンターパルス	穴水町	9,810
2003.12	パワーシティワジマ・ワイシティ	輪島市	12,287
2007.9	クスリのアオキ輪島店	輪島市	1,305

【出典】石川県 HP

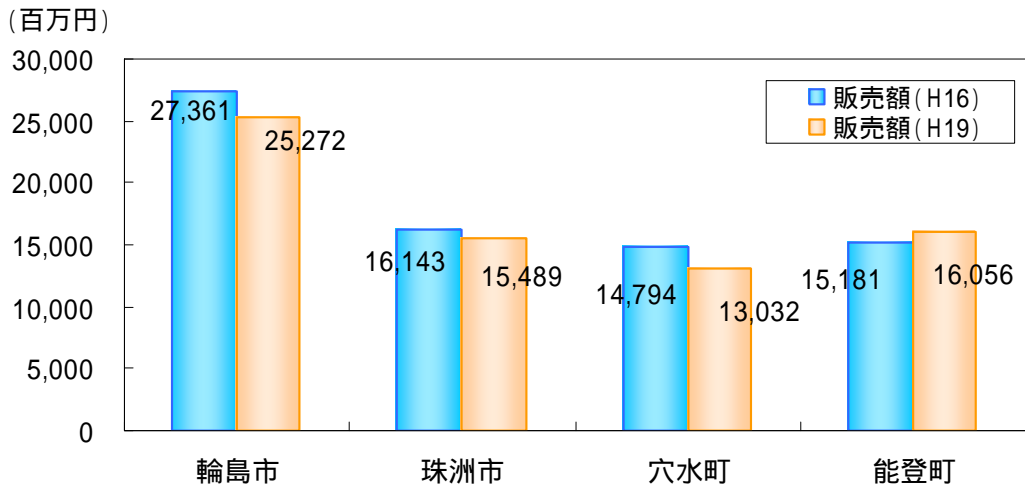


図 5-162 年間小売販売額の推移

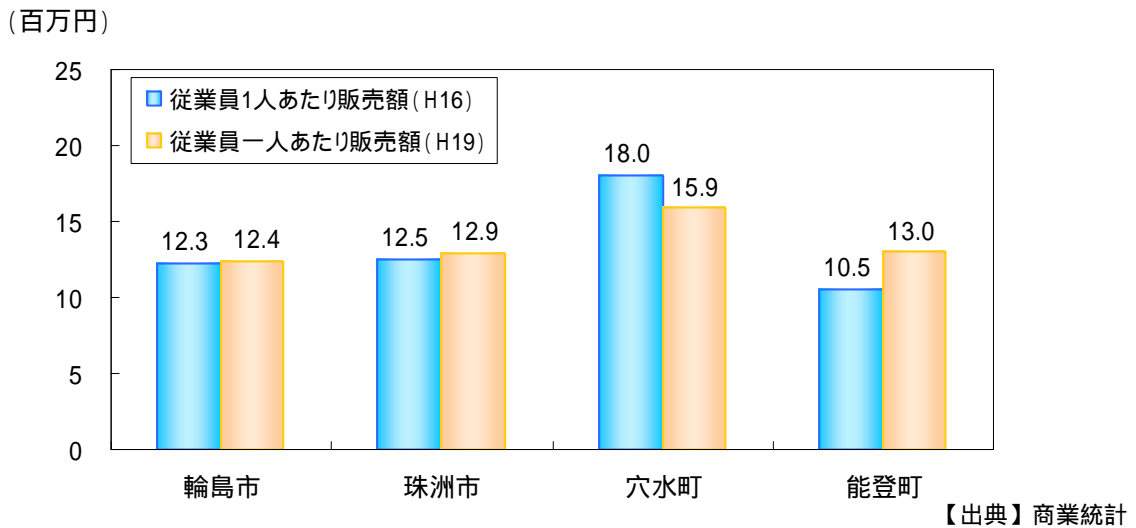


図 5-163 従業員一人あたり年間小売販売額

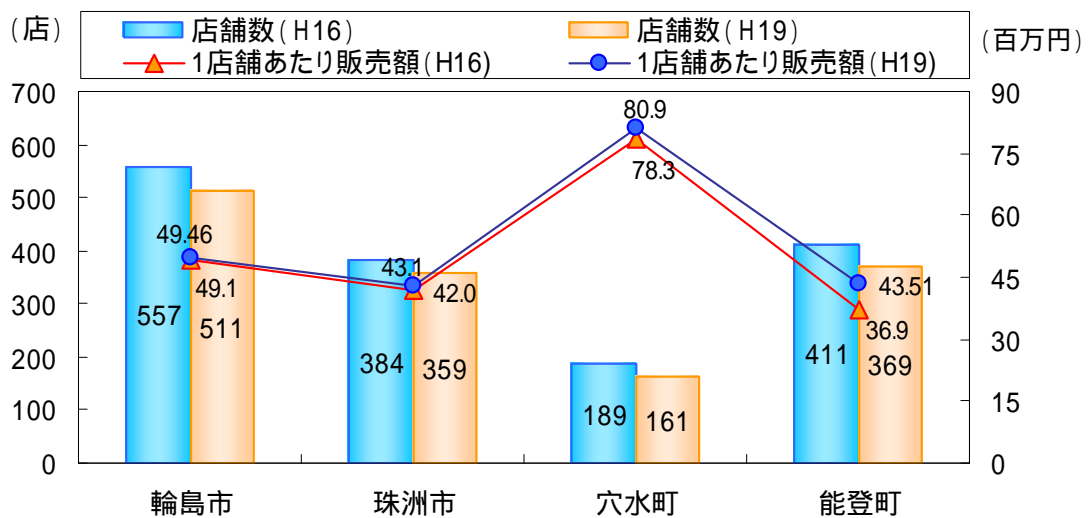


図 5-164 小売店舗数及び1店舗あたり販売額

増加しつづける高齢者世帯

奥能登地域の高齢者世帯は、全国平均の伸び率を下回っているものの、単身世帯、夫婦世帯共に増加の傾向にある。特に独居世帯の増加について生活の不安が大きく、安全・安心な暮らしができるよう適切な対策が必要である。

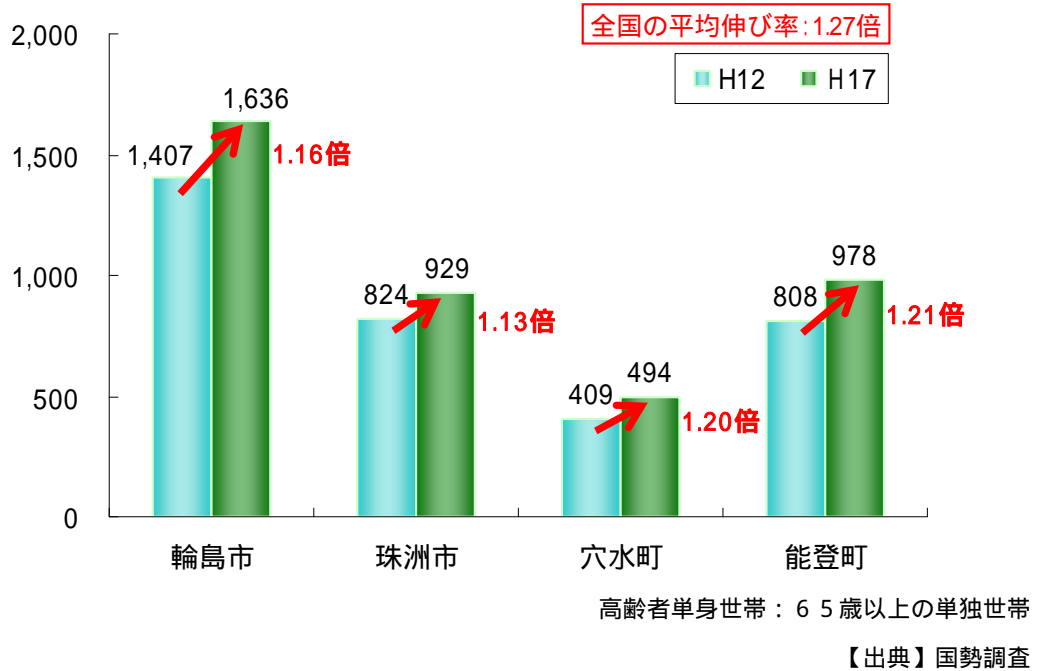


図 5-165 高齢単身世帯の推移

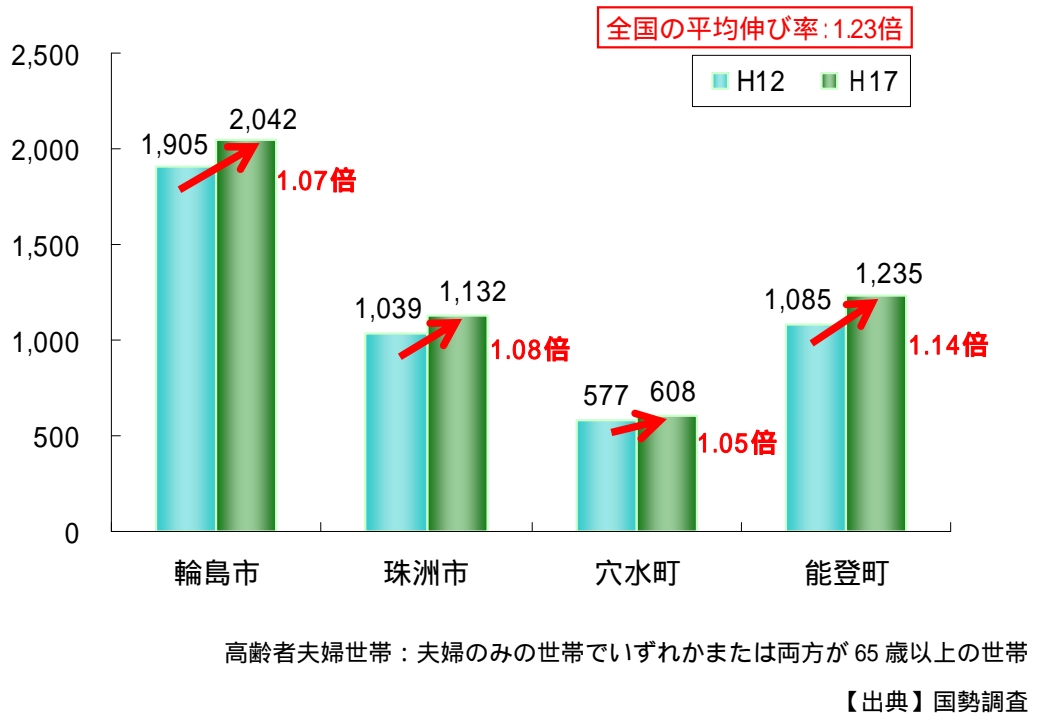
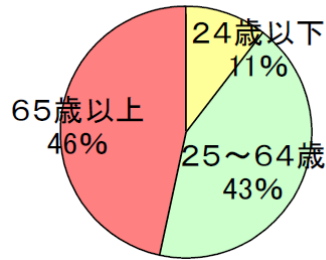


図 5-166 高齢単身世帯の推移

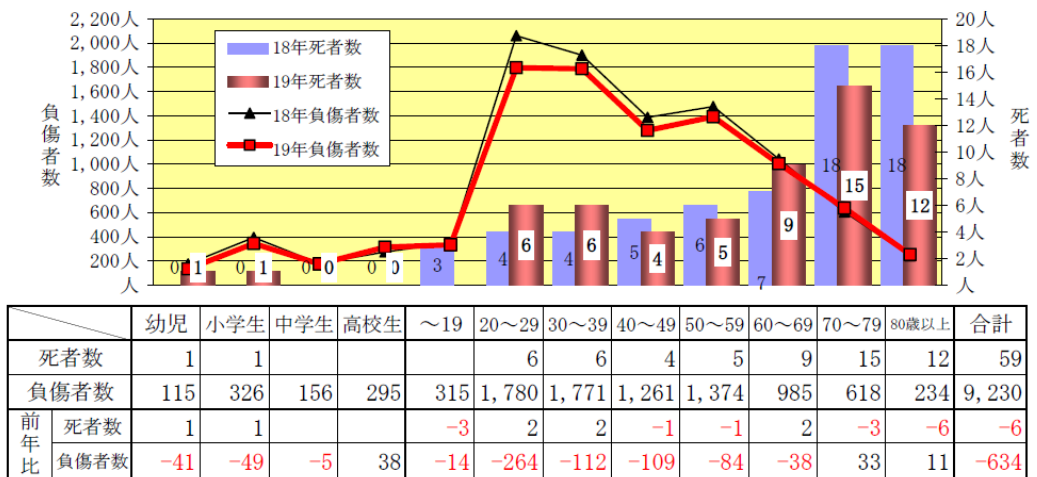
高齢者の移手段の確保

奥能登地域では平成 17 年の能登線廃止により地域内移動はバス及び乗用車にかぎられている。しかし、バス路線のない地域もあるなど（前掲）乗用車保有率は 1 世帯当たり 1 台を超えており、日常生活における移動は自家用車が中心となっている。近年、高齢化に伴い高齢者が当事者となる交通事故が全国的に増加しており、奥能登地域においても、高齢者が安心して利用できる安全な移手段の確保が望まれている。



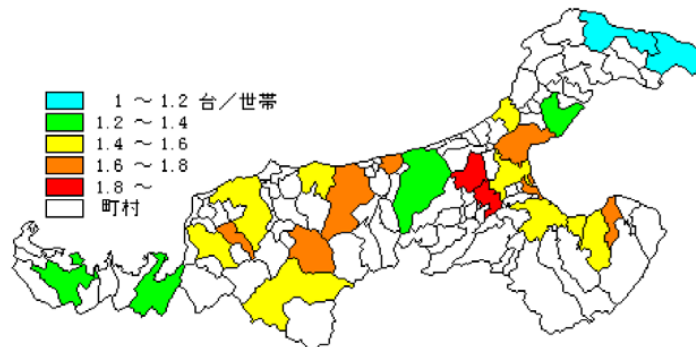
【出典】石川県警 HP

図 5-167 交通事故死者数の年齢構成



【出典】石川県 HP

図 5-168 年齢階層別の第一次当事者事故割合の経年変化



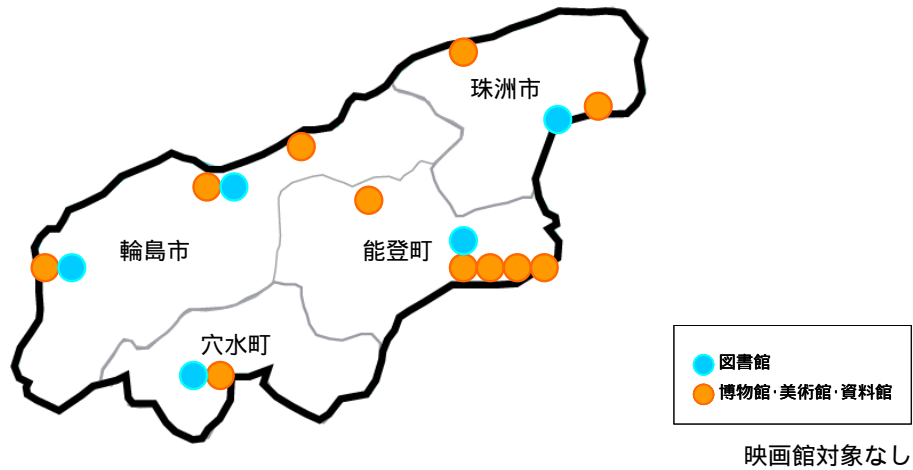
【出典】日経地域情報

図 5-169 世帯あたり乗用車保有台数（平成 10 年 3 月末）

4) 遊(楽しむ)

地域の魅力の向上

奥能登地域の人口は約8万人程度であり、高齢化も著しいことから、自市町村内に集積する都市機能は限定され、レクリエーション施設などは人口集積の高い都市に依存することとなる。



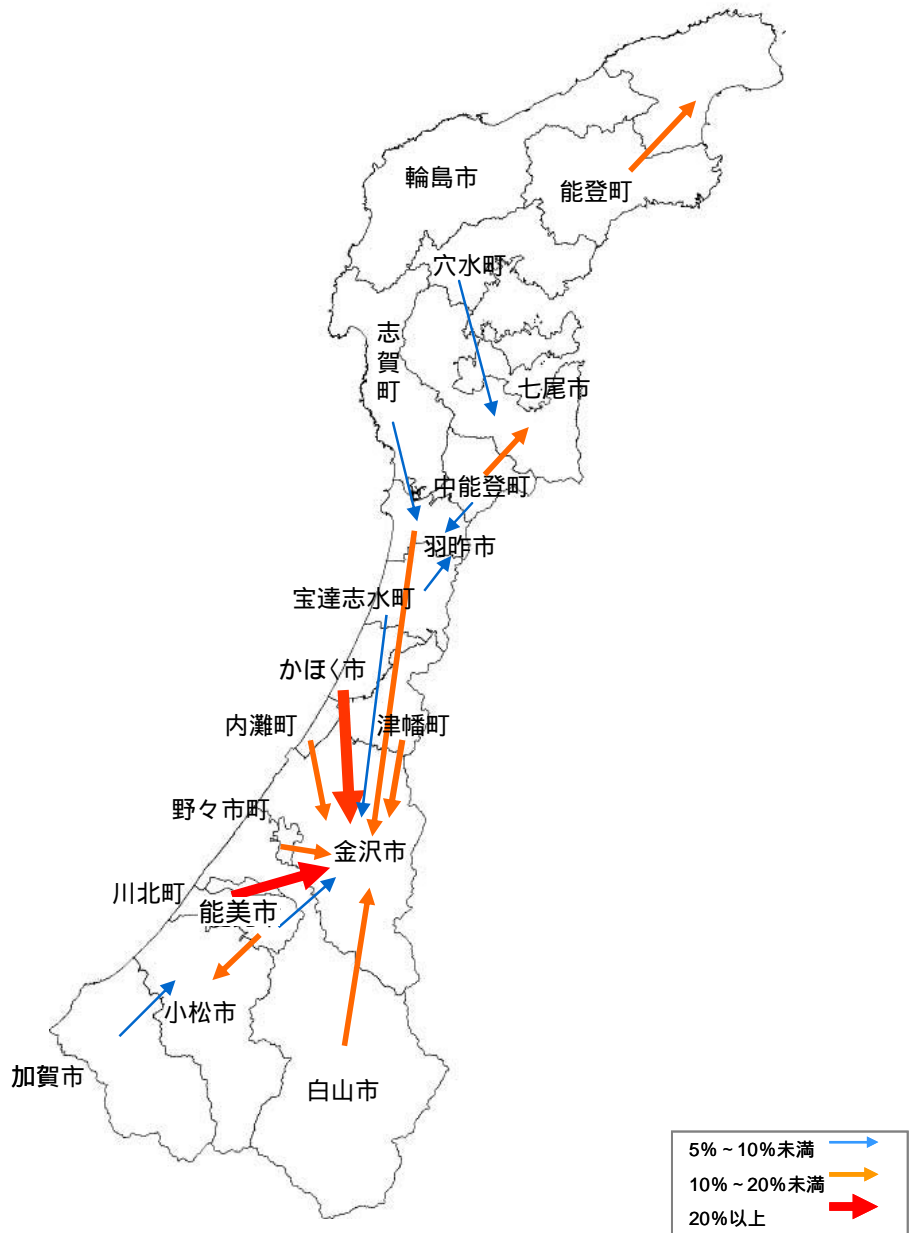
【出典】統計で見る市区町村のすがた 2008、Mapion 電話帳、goo 映画HP

図 5-170 映画館・図書館・博物館等文化施設の状況

5) 学

地域から通える環境の構築

奥能登地域の通学流動をみると、能登町から珠洲市への流動と、穴水町から七尾市への流動が見られるが大きくはなく、基本的には自市内で通学していることがわかる。しかし、地域内の大学は石川職業能力開発短期大学校のみであるため、高校卒業後は地域外の都市へ下宿して通学しているものと考えられる。また、奥能登地域の有効求人倍率は低いため、そのまま通学先に人口が定着し流出することにつながり、将来にわたり、人口の減少を繰り返すこととなる。学生が地域から自宅から通学できる環境を充実する必要がある。

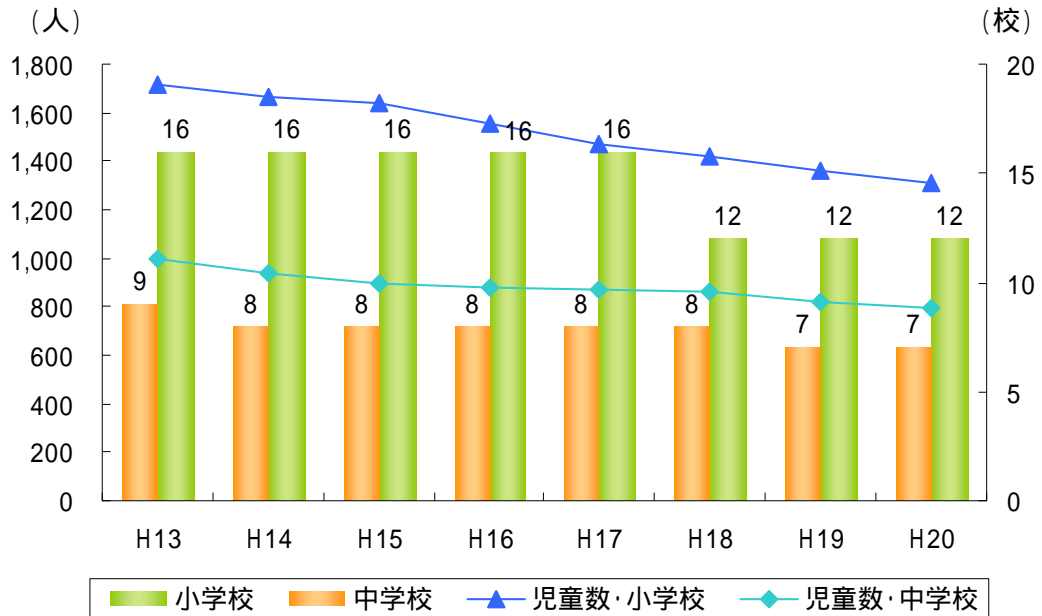


【出典】国勢調査（平成 17 年）

図 5-171 通学流動

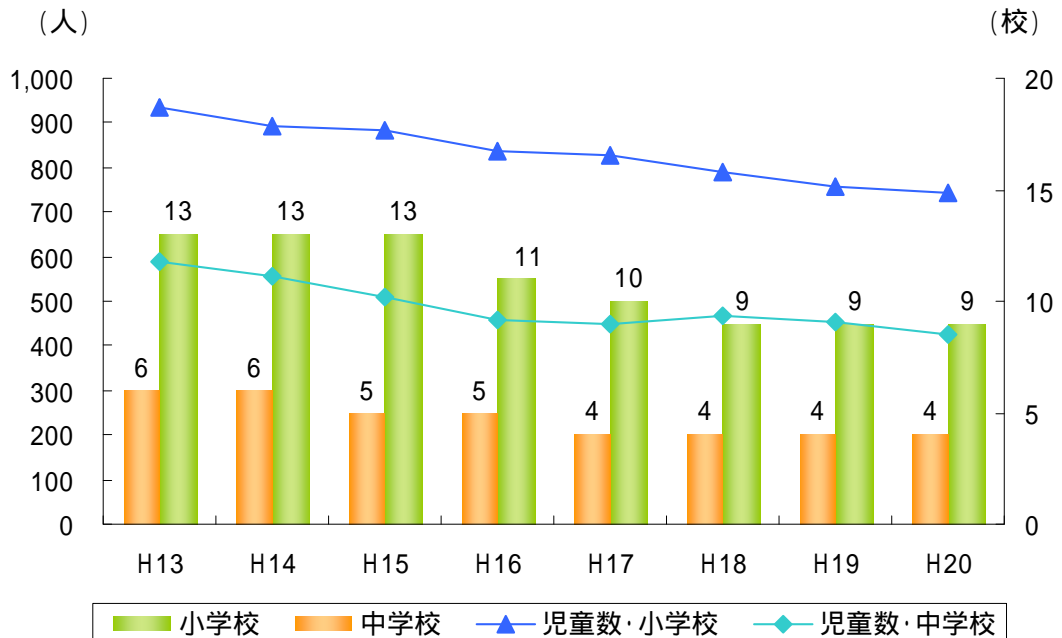
児童・生徒数の減少により、中山間地域を中心に小・中学校の統廃合が進行

少子化の進展に伴う児童・学生数の減少により、従来の学区を維持することが困難なため、小・中学校の統廃合が徐々に進行している。統廃合により学区が拡大し、長時間の通学を余儀なくされる生徒への適切な対応が必要となる。



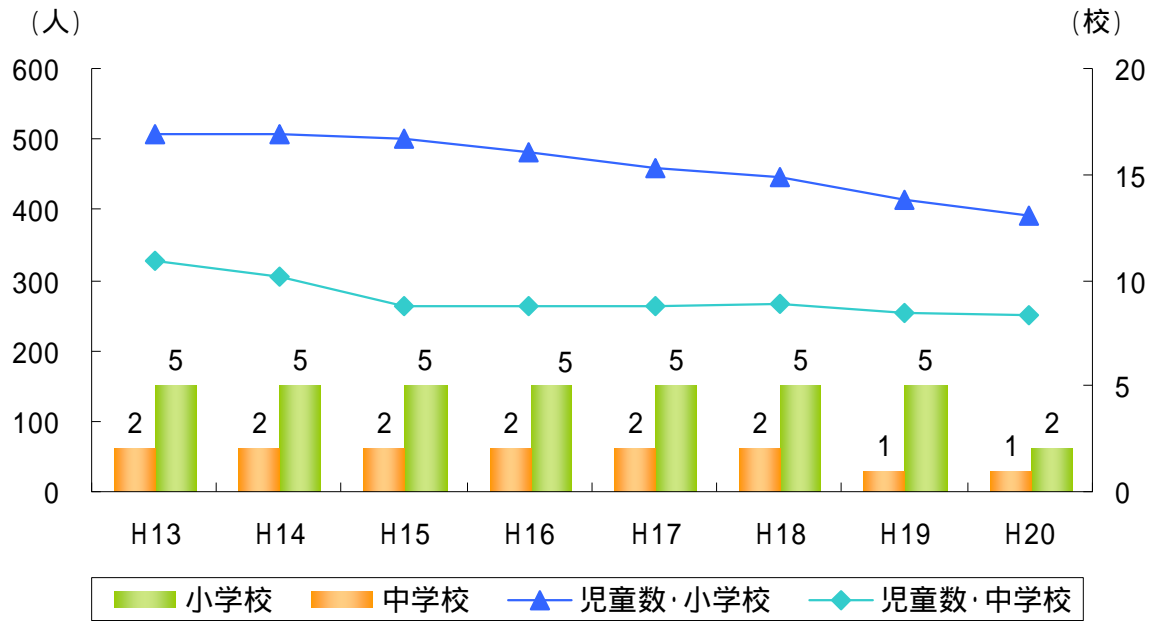
【出典】石川県統計書

図 5-172 小・中学校の学校数の推移（輪島市）



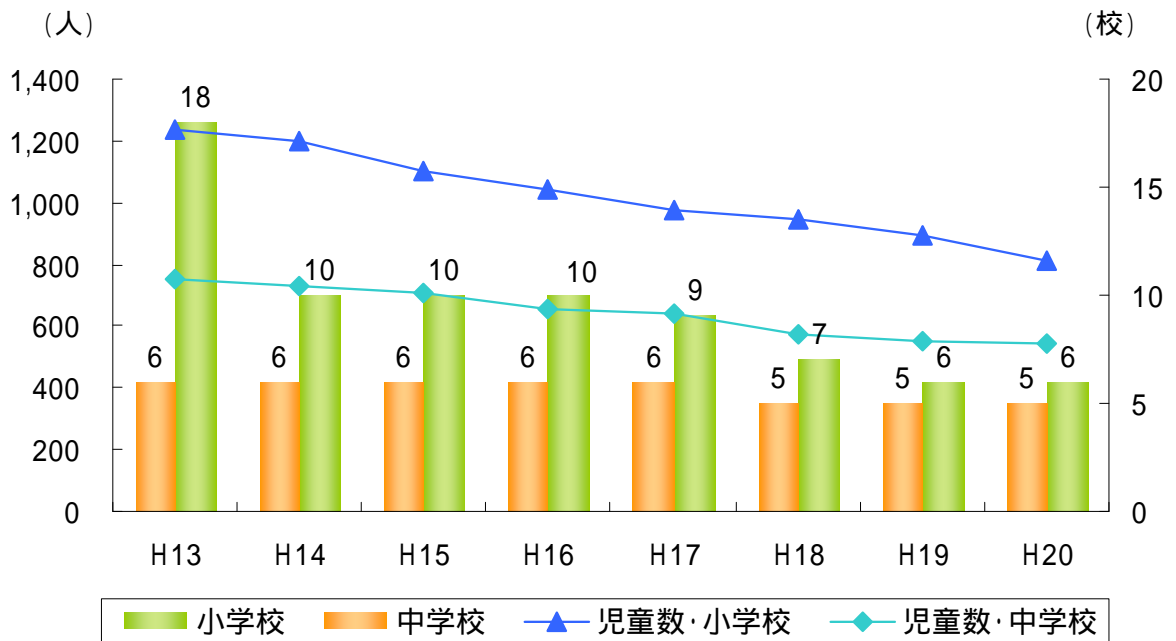
【出典】石川県統計書

図 5-173 小・中学校の学校数の推移（珠洲市）



【出典】石川県統計書

図 5-174 小・中学校の学校数の推移（穴水町）



【出典】石川県統計書

図 5-175 小・中学校の学校数の推移（能登町）

6) 観光

恵まれた様々な観光資源を活かし、七尾市などの能登半島南部を訪れる観光客の誘引による観光産業の強化

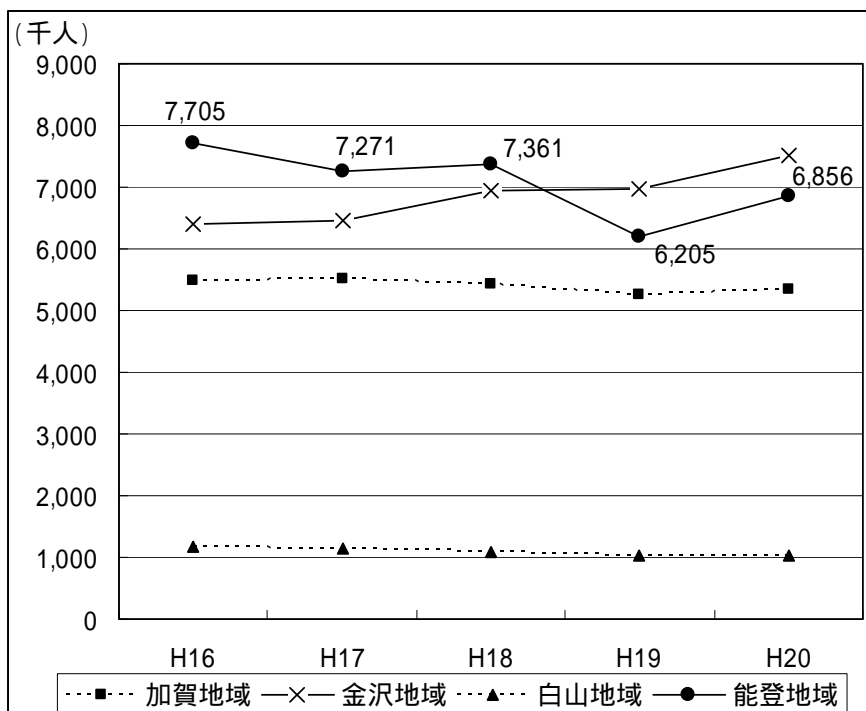
奥能登地域は海岸線に沿うようにして自然・食・温泉・祭りといった観光資源が点在している。

能登地域（羽咋郡以北）の観光入込み客数は685.6万人であり、石川県全体の約33.0%を占めており、金沢地域（36.2%）に次いで多い地域であるが、このうち、奥能登地域は、主要観光施設入込み数で24.1%、主要祭り・イベント入込み数で42.2%と少ない。（5,000人以上の観光入込みがあるもの）

能登半島南部には、集客力が強い和倉温泉・能登食祭市場・千里浜・青柏祭などがあり、これらの観光地・イベントを訪れる観光客を奥能登地域まで誘引する仕掛けづくりが必要である。



図 5-176 奥能登地域の代表的な地域資源



【出典】石川県観光統計

図 5-177 石川県の地域別観光入込み客数

表 5-18 能登地域の主要観光地等の入込み客数

(単位:千人)

		入込み客数	割合
能登地域		5,691	100.0%
	奥能登地域	1,374	24.1%
	奥能登地域以外	4,317	75.9%
	和倉温泉	962	16.9%
	千里浜	628	11.0%
	気多大社	506	8.9%
	能登食祭市場	803	14.1%

【出典】石川県観光統計(H20)

表 5-19 能登地域の主要観光地等の入込み客数

(単位:千人)

		入込み客数	割合
能登地域		876	100.0%
	奥能登地域	370	42.2%
	奥能登地域以外	506	57.8%
	青柏祭	153	17.5%
	花嫁のれん	82	9.4%

【出典】石川県観光統計(H20)